

## 30年4月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 4月1日～ 30年 4月10日

## 2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
4月分の回答企業数は6社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		30/4月	5月	6月
入荷動向	スギ	△ 10.0	△ 12.5	12.5
	ヒノキ	0.0	△ 25.0	25.0
	カラマツ	30.0	12.5	12.5
	トドマツ	0.0	25.0	0.0
消費動向	スギ	△ 10.0	△ 12.5	12.5
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	25.0
	カラマツ	20.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	10.0	0.0	0.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	30.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギの入荷動向は4月、5月の減少から6月は増加に。ヒノキは4月の横ばいから5月は減少、6月は増加に。カラマツは3カ月連続増加。トドマツは4月の横ばいから5月は増加、6月は再び横ばいに。

・スギ、ヒノキの消費動向は4月、5月の減少から6月は増加に。カラマツ、トドマツは4月の増加から5月、6月は横ばいに。

・スギ、カラマツの在庫動向は4月の増加から5月、6月は横ばいに。ヒノキ、トドマツとも3カ月連続横ばい推移。

## (2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/4月	5月	6月
スギ	20.0	12.5	12.5
ヒノキ	25.0	0.0	0.0
カラマツ	30.0	0.0	0.0
米マツ	50.0	50.0	50.0
北洋カラマツ	50.0	50.0	50.0
その他	0.0	0.0	0.0

・スギ合板用原木の購入価格動向はやや強含み。

・カラマツは保合。

・外材は米マツ、北洋カラマツとも強含み。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

・12月～3月まで寒さにより予定した枚数の生産が落ちていたが、4月より通常生産に戻る。生産・消費に合わせた入荷により在庫はほぼ横ばい。  
・スギの消費減の計画により入荷量も減少へ。4月はトドマツの入荷増。フロア台板の生産増に伴いトドマツの消費量増。スギ消費減の見通し。在庫はどの樹種もほとんど変わらない見通し。  
・計画通り安定定期に入荷。生産計画に添い消費。在庫はほぼ横ばい。冬季時受入れ増分増している。  
・スギ在庫が増えたため入荷を抑える。ヒノキの消費が増えてきた。ヒノキの在庫を増やしていく。  
・スギは地域材指定（インテリア）として調達。カラマツは計画通り入荷。消費はスギインテリア需要は拡大中。LVL用カラマツは順調。カラマツ在庫は拡大。

## (原木価格)

・スギは横ばいだが高値ではりついている。カラマツは他県からの買いが強く値は上昇。  
・スギの高品質材とカラマツは4月より値上げしている。外材丸太は全体的に強含みの相場が続いている。  
・カラマツの上昇が厳しい。径級によっては上昇する材も。  
・市場価格は下がってきたが、合板用原木価格は横ばいをキープする。  
・スギは地域によって価格上昇。カラマツは需要見合いで価格横ばい。

## 30年4月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		30/4月	5月	6月
生産動向	構造用(9mm)	△ 25.0	△ 16.7	16.7
	〃 (12mm)	0.0	△ 25.0	12.5
	〃 (15mm)	△ 10.0	△ 12.5	12.5
	〃 (24mm)	0.0	△ 25.0	12.5
	〃 (28mm)	△ 10.0	△ 12.5	12.5
出荷動向	構造用(9mm)	0.0	12.5	25.0
	〃 (12mm)	△ 16.7	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (15mm)	△ 8.3	△ 10.0	△ 10.0
	〃 (24mm)	0.0	△ 20.0	△ 10.0
	〃 (28mm)	0.0	0.0	0.0
在庫動向	構造用(9mm)	12.5	0.0	0.0
	〃 (12mm)	10.0	0.0	0.0
	〃 (15mm)	0.0	0.0	0.0
	〃 (24mm)	10.0	0.0	0.0
	〃 (28mm)	0.0	△ 12.5	0.0

・構造用合板の生産動向は9mm、15mm、28mmは4月、5月の減少から6月は増加に。12mm、24mmは4月の横ばいから5月は減少、6月は増加に。

・出荷動向は9mmは4月の横ばいから5月、6月は増加に。12mm、15mmは3カ月連続減少。24mmは4月の横ばいから5月、6月は減少に。28mmは3カ月連続横ばい推移。

・在庫動向は9mm、12mm、24mmは4月の増加から5月、6月は横ばいに。15mmは3カ月連続横ばい推移。28mmは4月の横ばいから5月は減少、6月は再び横ばいに。

## (2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/4月	5月	6月
構造用(9mm)		12.5	0.0	0.0
〃 (12mm)		20.0	0.0	0.0
〃 (15mm)		10.0	0.0	0.0
〃 (24mm)		20.0	0.0	0.0
〃 (28mm)		20.0	0.0	0.0

・構造用合板の出荷価格動向は全品目とも保合。

## モニターからのコメント

## (構造用合板の荷動き)

・総生産が増えた分を12mm、24mmを増やす。出荷はほぼ横ばいだが全体的に荷動き鈍くなってきている。12mm、24mmの生産増えた分だけ在庫増。ただし在庫量としては少ない方。

・国産針葉樹フロア台板の増産に伴い、主力の12mm、24mmの生産量が若干減少する。フル生産体制は継続しているが4月、5月は連休により稼働日数が少なく生産量は減少する。出荷は堅調を予想も、三重の新工場が稼働開始し、市場も若干様子見ムードがあり、現在は動きが落ち着いている。年度末ということもあり若干在庫は増えたが、今後需要が高まってくると思われるため、まだまだ在庫水準が低い。

・計画通り生産、多少変動はあるもほぼ横ばい。受注計画通り出荷。4月24mm増。在庫はほぼ横ばい。

・4月末から5月連休にかけて設備メンテにより生産減となる。発注状況に合わせての生産内容となる。出荷は例年4月から落ち着いた動きになるが、相変わらず12mm、ネダノンともに引き合いが強い。在庫は低水準のままで増える状況にない。

・針葉樹合板9mmに関しては他メーカーの製造が少なく、弊社に対しての引き合いが多い状態。ただし弊社も作りづらい寸法と言える。一般住宅の今期初旬は動きが良くない傾向。今のところ減少状況

## (構造用合板の価格)

・3月より値上げしたものの客先によって値上げが遅れていたところがあり、当月は出荷価格上昇。  
・一部直需向けで値上げしているが、それ以外は変化なし。接着剤、原材料価格の今後の動向次第では再度値上げも考えられる。

・4月より値上げするも上昇率は低い。

・原木価格次第では価格見直しもあり得る。このまま様子見状態。